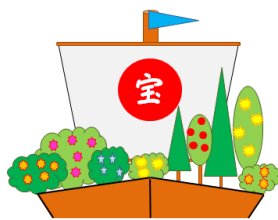


京都の企業の皆様へ

CSR活動で『宝が池の森』を
鹿の食害から守ってください。



宝が池公園のコバノミツバツツジ



宝が池公園に棲みついた鹿

宝が池の森 『宝の方舟』 プロジェクト

宝が池の森の現状

- 「京都議定書」採択の地である「宝が池」は、五山の送り火の「妙」「法」がある場所としても知られており、公園は市民の憩いの場になっています。池には多くの鳥が集まり、周辺の森は散策に利用されています。4月上旬にはコバノミツバツツジが咲き誇るなど代表的な都市近郊林として親しまれています。
- しかし、近年は、マツ枯れに加えて、ナラ枯れも生じ、土壌流失が始まっています。そのうえ、とうとう鹿が棲みついてしまったことから、鹿による食害がおきています。また、シイ、ソヨゴ、ナンキンハゼなどの特定の樹種のみが勢力を拡大しており生物多様性が急速に失われ始めています。

必要な防除対策

- 食害から森を救うには、鹿の個体数を減らすか、鹿の森への侵入を防ぐしかありません。宝が池の森は市民公園ですので、狩猟による捕獲は難しいです。結局、防鹿柵を設置することにより鹿の侵入を防ぐしか手立てがありません。
- 小規模な防鹿柵を多数設置する方法が有効であり、防鹿柵で守られた区域では、本来の植生が徐々に復活し始めています。私たちは、小規模な防鹿柵で守られた区域を、ノアの方舟に例えて、『宝の方舟』と呼ぶことにしました。

主催

京都府立大学 森林計画学研究室

協力機関・団体

「宝が池の森」保全再生協議会、京都宝の森をつくる会、京都市都市緑化協会、京都大学、京都学園大学

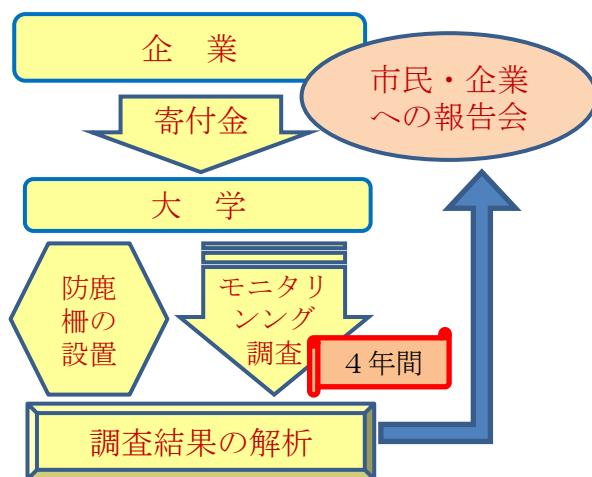
申込み・問合せ先

京都府立大学 生命環境科学研究科 森林計画学研究室 田中
電話 075-703-5629 E-mail: tanakazu@kpu.ac.jp
※ お問い合わせは、なるべく E-mailでお願いします。

CSRとは

- CSR（しーえすあーる）corporate social responsibility とは、企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動のことです。

プロジェクトの仕組み



- 奨学寄付金は、1セット40万円です。
- 複数の企業様が共同して1セット分を寄付することもできます。
- 奨学寄付金は、防鹿柵の購入、設置・補修・撤去費用、スポンサー企業名を記した看板の作成、報告会用の配付資料の作成等に用います。
- 奨学寄付金は、所得税法上の寄付金控除の対象となる特定寄付金又は法人税法上の全額損金算入を認められる指定寄付金として財務大臣から指定されています。

宝が池の森 『宝の方舟』 プロジェクト

宝が池の森の現状

ナラ枯れによる森林衰退



ナラ枯れにより、スギが目立つようになりました。林床はシカの食害により、森の奥まで見通せます。

シカによる森林被害

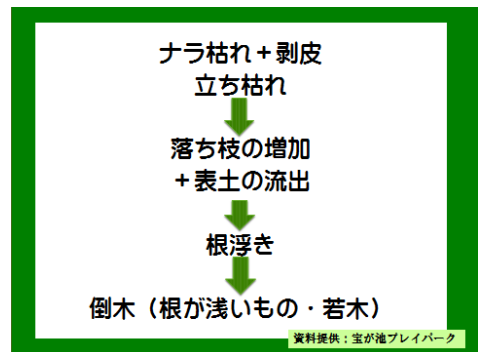
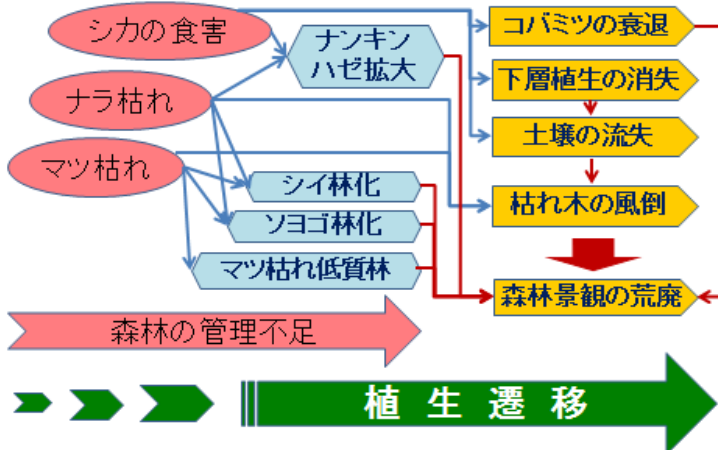


枝折り被害
2013年～

写真提供：宝が池プレイパーク



宝が池公園の森林問題



ここ数年の間に、マツ枯れに加えて、ナラ枯れも生じ、立ち枯れ木が増えていきます。また、シカによる食害によって、下層植生が消失しています。それらの結果、表土の流失による根浮きが生じ始めており、枯れ木の倒木が憂慮されています。

宝が池の森 『宝の方舟』 プロジェクト

宝が池の防鹿柵

基本的な考え方

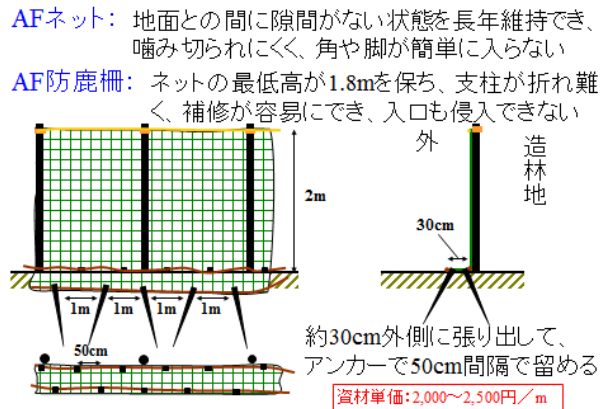
【指導・監修】 京都大学 高柳 敦 先生

- ① **【積極的防除】** 野生動物がいるのが健全な森林であり、被害があるのが当たり前と考え、野生動物と人間の営みとのバランスを保つために、積極的な防除を推進します。
- ② **【小規模防鹿柵】** 下層植生の保護・維持とシカとの共生をはかるため、小規模な区画をフェンスで囲う防鹿柵を複数設置してシカ食害対策に取り組む、スポット防除を実施します。
- ③ **【AF規格】** シカが防鹿柵内に侵入するパターンは主に4つあります。1) 下からの潜り込み、2) 乗り越え、3) 穴あけ、4) 飛び込み。 これらの侵入を防ぐために、森林で効果的と高く評価されているAF規格の防鹿柵を用います。

効果的な防鹿柵の規格:AF規格(案)

- A. 簡単に上から入れられない
- B. 下から簡単に潜り込まれない
- C. 網部が簡単に破られない
- D. シカが引っかからない
- E. 入口も柵と同程度に入れられない
- F. 経年劣化を修正可能
- G. 破損をその場で補修できる
- H. 枯死木除去などの維持管理が容易

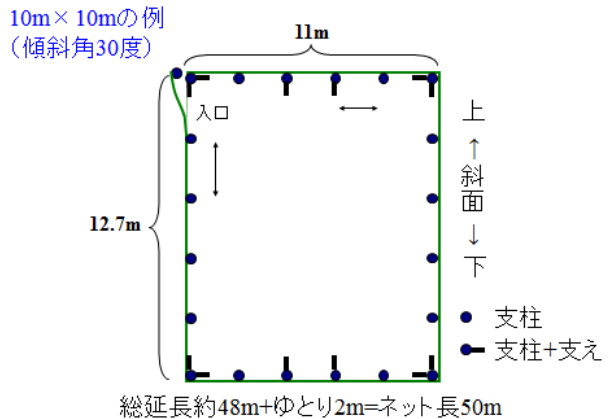
AF規格準拠の化繊ネット柵の標準構造



AF規格準拠の化繊ネット柵



スポット防除の基本設計(斜面)



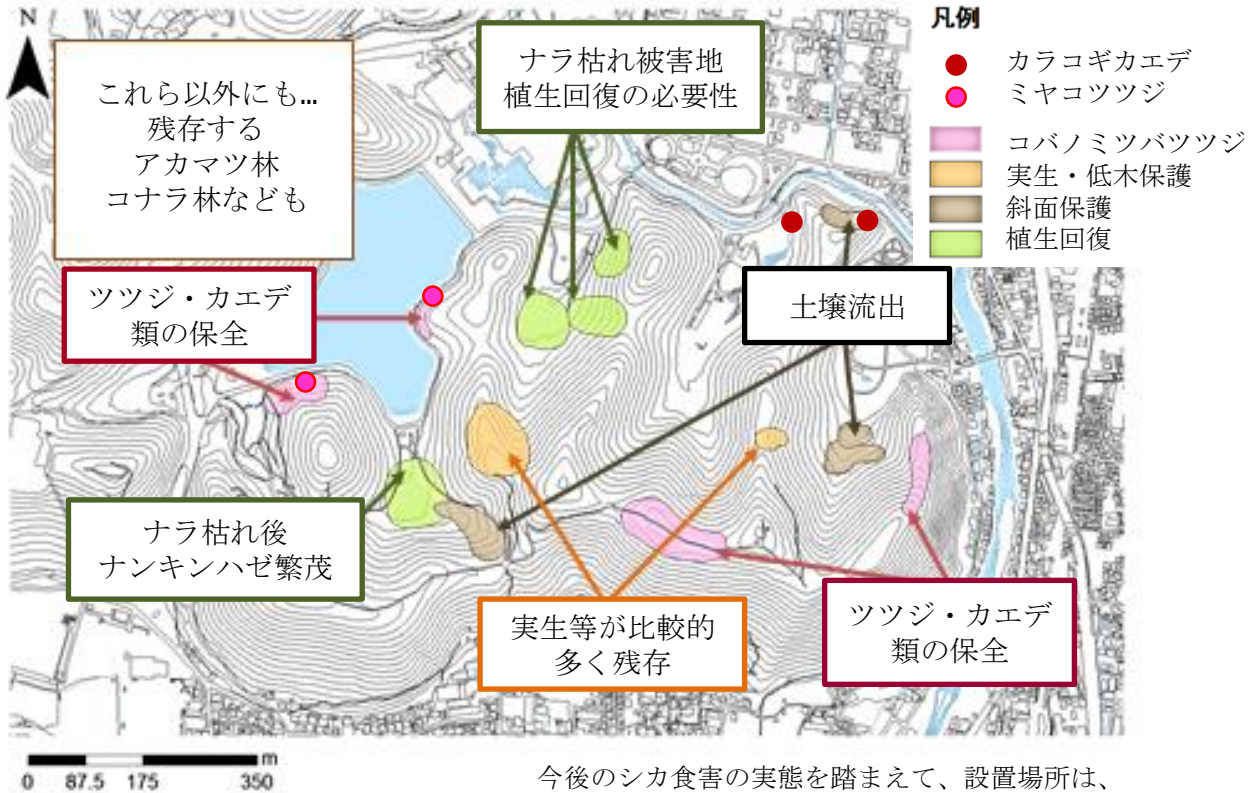
実施方法

- ① **【設置】** 一边が約10m、周囲長が40~50mの小規模な防鹿柵を設置します。第1期分として、4セットを計画しています。防鹿柵には、スポンサー企業名を記した看板を表示します。
- ② **【モニタリング】** 防鹿柵の内外の植生の変化について、少なくとも4年間は継続調査をします。調査内容は、シカの食害の有無、ナラ枯れ等による枯損状況、下層植生の生育状況、萌芽更新の状況、実生発生の状況、土壌流失の状況などです。
- ③ **【補修・維持管理】** シカが防鹿柵の中に無理矢理侵入しようとするため、防鹿柵の補修・維持管理は不可欠です。地形等の条件に応じて適切に設置し、点検、補修を継続的に実施します。

宝が池の森 『宝の方舟』 プロジェクト

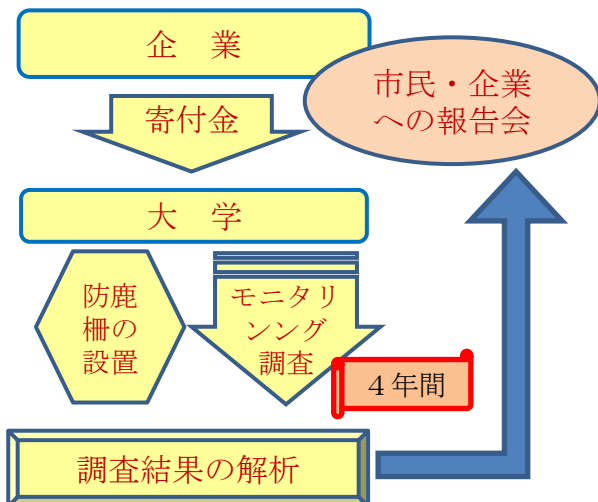
防鹿柵の設置場所

防鹿柵を設置し、保全・植生回復が望まれる場所



今後のシカ食害の実態を踏まえて、設置場所は、より適切な場所に変更することがあります。

実施体制・組織



- ①【防鹿柵の設置・補修】
専門業者に依頼します。
- ②【モニタリング調査】
京都府立大学の森林計画学研究室が主体的に取り組みますが、京都大学、京都学園大学の研究者、ならびに、「宝が池の森」保全再生協議会、京都宝の森をつくる会、京都市都市緑化協会の関係者が協力します。
- ③【市民・企業への報告会】
年に一度、モニタリング調査結果や宝が池の森の現状について報告会を開催します。

申込み・問合せ先

京都府立大学 生命環境科学研究科 森林計画学研究室 田中
電話 075-703-5629 E-mail: tanakazu@kpu.ac.jp
※ お問い合わせは、なるべく E-mail をお願いします。